



年 組 ()

もう、いいかげんにしてほしい。トモコはいらだっていた。ミスズは、毎回遅刻してやって来る。それも、1回や2回どころではない。もう10回くらいは遅刻している。待ち合わせ時間から20分くらいおくれてやってくることもある。

この間なんて、公園で遊ぶのに10人で待ち合わせをしていたのに、遅刻してやってきた。ミスズは両手を合わせて、申し訳なさそうに謝っていた。

「ごめん、ごめん！ 本当にごめん！ ちょっと準備にバタバタしていて——。もう二度とおくれないから！」

みんなも、それを聞いて許してあげた。トモコは、「さすがに、いい加減反省したのかな。」と思っていた。

——それなのに、今日もまたミスズはやって来ない。待ち合わせ時刻を10分間も過ぎている。今日は、小物屋さんと一緒に見に行く約束をしていたのに、これじゃあ電車にも間に合わない。

ミスズは大事な友達だ。3年間も同じクラスで、学校ではいつも一しょにいる。おたがいになやみ相談もしているし、分かり合えていると思っている。でも、やっぱり許せない。

ミスズが走ってやってきた。

「ごめん、ごめん！ 本当にごめん！ 家のカギが見つからなくて、困っちゃった。じゃあ、小物屋さんに行こう！」



今の気持ちを伝えなければ、私は一日イライラしてしまうだろう。——でも伝えれば、ちょっと気まずい雰囲気になる。せっかくの楽しいお出かけなのに、それもなんだかイヤだな——。

トモコは、自分の気持ちを伝えようかどうか考えた。

トモコは、自分の気持ちを伝えるべきでしょうか。伝えないべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

.....
.....

話し合って考えたことを書きましょう。

.....
.....